

第8回新鋭俳句賞

準賞

画
鉦

藤井
万里

画鈔

- 1 瓶はなほ葉のにほひ桐の花
- 2 蛇の眼の破れさうなる青さかな
- 3 四阿の梁の御札やほととぎす
- 4 紫陽花の裏へ元栓閉めにゆく
- 5 僧堂と書いて郵便受涼し
- 6 六月の指を熱がる赤ん坊
- 7 さつきまで木の揺れてるし羽抜鶏
- 8 水鉄砲にはかに水の減りにけり
- 9 横の卓蜘蛛の話をしてをりぬ
- 10 梅雨茸汁がへこみに膨らみに
- 11 雨粒のごとく一人や夏書僧
- 12 夏服や拳ほどけばゑのこ草
- 13 座布団に木魚の沈む茄子の花
- 14 大人しく瓶を出てくるビールかな
- 15 虫干や鳥迷ひなく枝のうへ
- 16 花束をとことこ運ぶ残暑かな
- 17 草市のみな待人のゐるやうに
- 18 菜屑つく菜虫のところどころかな
- 19 商談や御僧にして秋扇
- 20 金物の少なき寺の水澄める
- 21 露の玉増えず減らずの野菜かな
- 22 ただ翅をひらき蠟螂抗ひぬ
- 23 夕風の向かうへ夕日獺祭忌
- 24 月祀りをり内股を言はれをり
- 25 てのひらで押し込む画鋏鴨来る
- 26 日向から日向に糸瓜垂れさがり
- 27 水よりも湯の重たくて秋の山
- 28 天窓の近きと思ふ夜食かな
- 29 刈蘆を足蹴に別の蘆刈れり
- 30 全員の見てゐる雨と藤の実と